

# なななお

題字  
みなみだいら児童館  
館長 平野 佳子

発行責任者  
七生中地区青少年育成会  
会長 宮下 啓司

## 子どもの面々

七生中地区青少年育成会 会長 宮下啓司

私には三人の息子がいます。どの子どもも三十歳を超え、サフリームンになっていきます。私自身も会社員を定年となり、前期高齢者の仲間入りをいたしました。

男の子三人でしたから、家族で泊りがけの旅行や日帰り温泉などに出かけるときに、お風呂の面倒をみるのは、いつも私の役目。子どもたちは露天風呂に出たり入ったり、水風呂で遊んだりとはしゃぎ。

入浴に飽きた頃、僕が子どもたちのカラダや頭を洗ったりします。三人がんの役目を果たす頃には、結構、こつちが疲れてきたものです。お風呂をあがるときには三人がジャンケンをして、カラダを拭いてもらう順番決め。勝った順にカラダを拭いてあげました。こんなことでも、周囲が呆れるほどの大声でジャンケンポン！

カミさんの実家には、よく子ども連れで遊びに行きました。義父はとても喜び、子どもたちを連れて近所のスーパーに出かけたものです。義父は子どもたちひとりひとりにスーパの買い物かごを渡し、「好きなものをかごに入れてください。じいちゃんが買ってあげるよ」と、大サービス。

子どもたちは大喜びでお菓子売り場に駆けて行き、いろいろなと興味しながらお菓子を買い物かごに入れていきます。そしてイザ会計のときに、次男ひとりだけが妙なモノを買い物かごに入れていたのです。

それは、「かにみそ」の缶詰。義父は「アレ、間違って入れたの？」と次男にたずねましたが、本人は「これが欲しい」と言います。

そつえば僕が自宅で日本酒で一杯やったとき、「かにみそ」を舐めたことがありました。次男が欲しかったのでちよつと舐めさせたことがありました。まさか、幼稚園生が「かにみそ」好きになるとは。

「将来は酒飲みになるよ」と義父は予言していましたが、確かに酒好きに育っています(笑)

こんな子どもたちでしたが、<sup>\*</sup>所帯を持つ子どもおり、昨年末、孫が誕生しました。わが家は男の子三人、妹宅も男の子二人と、子ども世代は男の子ばかりでした。宮下家は男ばかりのジंकクスが破られ、六十数年ぶりの女の子です。どんな子どもにも育っていくのか、今度はジイサンとして観察していきたいと思っ

## 「夢に向かって」

七生中学校 副校長 杉本全久

私は中学卒業後、電気屋になりたいと反対する親を説得して工業高校(現在は工科高校)へ進学。自分が学びたい分野の授業はとても楽しく、授業以外にも生徒会などの活動にも挑戦させてもらいました。高校卒業後は高校で出会った先生に憧れて教員の道を目指し大学へ進学。大学へは片道2時間以上かかりましたが気の合う仲間と出会うことができました。大学卒業後はミュージシャンの夢を追いかけて非常勤講師と音楽活動を行い、タレント事務所にも所属するも売れることなく夢破れ、設備会社に就職。その後、何度か採用試験を受け教員になりました。

中学校・高校・大学と目指す「夢」は次々と変わっていきましたが、振り返ると一生懸命「夢」に向き合っていたように思います。明日という未来に思いを馳せながら、小さくても、どんな「夢」でも、「夢」に向かって努力することは自分自身の成長につながっていると感じています。

工業高校の時に取得した電気工事士の資格があったからこそミュージシャンを挫折後の設備会社の仕事に役立てることができました。設備会社での経験が技術の教員としての自信にもつながりました。ミュージシャンを目指し磨いたギターも地域・学校で役立てることができています。遠回りし紆余曲折があっても、何一つ無駄は無いと実感しています。

私の好きな言葉に、サッカー日本代表の監督だったアルベルト・ザッケローニさんの言葉があります。

「努力は成功を必ずしも約束しないが、成長は必ず約束されている。忙しい毎日ですが、一日一日が「夢」に向かって努力の一步であり続けたいです。」